

第42回大会

日時・平成10年8月10日、11日
 コース・那須野ヶ原カントリークラブ
 (男子6933ヤード、女子6222ヤード、男女各パー72)

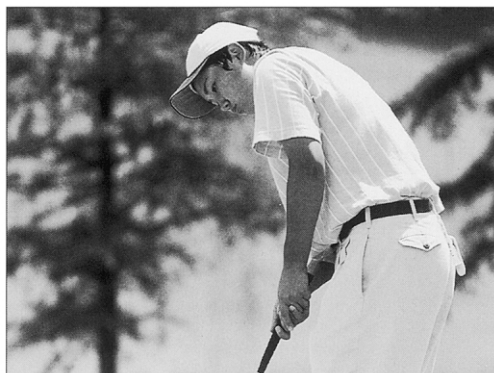


紫垣綾花(熊本・東海大二1年)が通算3オーバー147で初優勝した。首位に3打差7位からスタートしたが、アプローチが好調で1バーディー、1ボギーの72で回って逆転勝ち。8日の団体戦で惜敗した雪辱を果たすと同時に、6月日本女子オープンで最年少予選通過記録を樹立した将来性を見せつけた。

男子は清田太一郎(福岡・沖学園3年)が宮里優作(大阪・大阪桐蔭3年)とのデッドヒートを制し、通算6アンダー138で優勝した。

紫垣が高校初タイトル、それも全国大会を初めて制した。先週の団体戦では初日首位に立ちながら、最終日に逆転負け。師匠の坂田信弘プロに電話で「帰ってきたら覚悟しとけ!」とお仕置きの予告があった。これに発奮して、優勝で帳消しにした。18ホール中で1パットパーが9回というしぶとさ。「昨日はショートばかりしてたから、今日はしっかり打った」のが当たった。ハーフターンで首位に立ったが、「意識すると崩れそうだから」と、ライバルたちのスコアは気にせず自分のゴルフを貫いた。将来が楽しみだ。何より171センチの長身が魅力で、鍛えるほどにパワーアップしそうだ。部内には世界ジュニア代表の古閑美保という刺激材料がいて、「仲はいいけど、負けたくない」と互いに切磋琢磨(せっさたくま)している。「岡本綾子さんのように世界で活躍したい」と目標も高い。1年生での優勝で、現在プロの平瀬真由美、福島晃子が達成した3連覇への挑戦権も手にした。

また、男子は、ライバル対決を清田太一郎が制した。「相当うれしい」。ラウンド中は厳しかった清田の顔が、一気に崩れた。小学生時代からのライバル宮里との直接対決。高校生になって一度も勝てなかった高校選手権。不調にもかかわらず勝てた。その思いが、アテスト終了後の笑顔に表れた。「自分が勝つんだ」とラウンド中に言い聞かせた。その自信はきついでトレーニングで身につけた。「プロの試合に出て、体力のなさが分かりました。トレーニングの量ではだれにも負けません」と胸を張る。「九州の怪童」清田にとって、また一つ忘れられない勝利が増えた。



全国高等学校ゴルフ選手権大会 文部大臣杯争奪 第42回個人の部 最終成績

◆男子の部

- ①清田太一郎
 (福岡 沖学園③) 138 (68・70)
- ②宮里 優作
 (大阪 大阪桐蔭③) 139 (68・71)
- ③弘井 太郎
 (高知 明德義塾③) 140 (73・67)
- ④市原弘大(埼玉 埼玉①) 143 (75・68)
- ⑤林 文晴(愛知 春日丘②) 145 (76・69)
- ⑥村田章悟(福岡 柳川①) 145 (73・72)
- ⑦池田 力(福岡 柳川③) 145 (71・74)
- ⑧田畑信昭(福岡 柳川②) 146 (74・72)
- ⑨長谷輝男(高知 明德義塾②) 146 (73・73)
- ⑩渡辺征伸(宮城 仙台育英②) 146 (71・75)
- ⑪村上史晃(茨城 水城②) 147 (76・71)
- ⑫長島庄平(茨城 水城③) 147 (71・76)
- ⑬藤島豊和(長崎 長崎日大②) 148 (75・73)
- ⑭斉藤大将(茨城 水城②) 148 (74・74)
- ⑮熊谷 淳(茨城 水城③) 148 (73・75)
- ⑯高山之賀(茨城 水城①) 148 (71・77)
- ⑰菅野武義(福島 福島②) 148 (72・76)
- ⑱辻村暢大(三重 久居③) 149 (73・76)
- ⑲下向裕也(和歌山 串本②) 149 (73・76)
- ⑳菅間隆夫(埼玉 埼玉栄②) 149 (72・77)
- ㉑池田浩二(香川 香川西①) 149 (78・71)

◆女子の部

- ①紫垣 綾花
 (熊本 東海大二①) 147 (75・72)
- ②持田 恵里
 (福岡 沖学園②) 148 (72・76)
- ③大川 久乃
 (北海道 駒大岩見沢①) 149 (73・76)
- ④佐藤 丹美
 (愛知 春日丘①) 149 (75・74)
- ⑤井上 景湖
 (東京・堀 越③) 149 (76・73)
- ⑥田中 亜依(愛知・春日丘②) 151 (76・75)
- ⑦下村真由美(埼玉・埼玉栄①) 151 (77・74)
- ⑧早乙女香織(埼玉・埼玉栄③) 152 (73・79)
- ⑨米村 洋子(福岡・沖学園③) 152 (73・79)
- ⑩黒須摩衣子(宮城・東北②) 152 (74・78)